

4 平家物語

名前

年組番

100点

1 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

(3) 10点 他5点×6

祇園^{ぎおん}精舎^{しやうじや}の鐘^{かね}の聲^{こゑ}、諸行^{しよぎやう}無常^{むじやう}の響^{ひび}きあり。
 沙羅^{しやら}双樹^{さうじゆ}の花^{はな}の色^{いろ}、盛者^{じやうしや}必衰^{ひつすい}の理^{ことわり}をあらはす。おこれる人も久^{ひさ}しからず、ただ春^{はる}の夜の夢^{ゆめ}のごとし。たけき者^{もの}もつひには滅^{ほろ}びぬ、ひとへに風の前の塵^{ちり}に同じ。

〔平家物語〕より

(1) 〔歴史的仮名遣い〕——線①～③を現代仮名遣いに直して書きなさい。

① () ② ()

③ ()

(2) 〔表現技法〕 第一文と第二文、第三文と第四文のように、よく似た言葉の構成になっている表現を何といえますか。次から一つ選びなさい。

ア 擬人法 イ 対句 ウ 体言止め

(3) 〔現代語訳〕——線部を現代語訳しなさい。

()

(4) 〔文学史〕 平家物語の a ジャンル、b 成立した時代を、それぞれ書きなさい。

a () b () 時代

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

6点×10

与一^{よいち}、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵^{こひやう}といふぢやう、十二^{じふに}東三伏^{とうみつ}、弓は強し、浦響^{うらひび}くほど長鳴りして、あやまたず扇^{あふぎ}の要^{かなめ}ぎは一寸ばかりおいて、

ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇^Iは空へぞ上がり□。しばしは虚空^{こくう}にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたり□。夕日^{ゆふひ}のかかやいたるに、みな紅^{べに}の扇の日出^{ひで}だしたるが、白波^{はくなみ}の上に漂^{たふ}ひ、浮^うきぬ沈^{しづ}みぬ揺^ゆられければ、沖^{おき}には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸^{くわ}には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。〔平家物語〕より

(1) 〔歴史的仮名遣い〕——線①～③を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① () ② ()

③ ()

(2) 〔係り結び〕——線Ⅰ・Ⅱには係り結びが使われています。共通する a 係助詞を抜き出し、□に入る b 結びの語を「□」から選びなさい。

a () b ()

(3) 〔現代語訳〕——線Ⅲの現代語訳を、次から一つ選びなさい。

ア 浮かばず沈まずして イ 浮かない様子で ウ 浮いたり沈んだりして エ 浮かれた様子で

(4) 〔時の把握〕 文中から a 「どの季節か」、b 「一日のうちのいつごろか」がわかる語句を、それぞれ漢字二字で抜き出さなさい。

a () b ()

(5) 〔擬音語〕 文中から擬音語を二つ探し、抜き出さなさい。

() ()

4 平家物語

名前

100点

1 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

(3) 10点 他5点×6

祇園^{ぎおん}精舎^{しやうじや}の鐘^{かね}の聲^{こゑ}、諸行^{しよぎやう}無常^{むじやう}の響^{ひび}きあり。
 沙羅^{しやら}双樹^{さうじゆ}の花^{はな}の色^{いろ}、盛者^{じやうしや}必衰^{ひつすい}の理^{ことわり}をあらはす。おこれる人も久^{ひさ}しからず、ただ春^{はる}の夜の夢^{ゆめ}のごとし。たけき者^{もの}もつひには滅^{ほろ}びぬ、ひとへに風の前の塵^{ちり}に同じ。

〔平家物語〕より

(1) 〔歴史的仮名遣い〕——線①～③を現代仮名遣いに直して書きなさい。

- ① () あらわす () ② () ついには ()
 ③ () ひとえに ()

(2) 〔表現技法〕 第一文と第二文、第三文と第四文のように、よく似た言葉の構成になっている表現を何といえますか。次から一つ選びなさい。

- ア 擬人法 (イ) イ 対句 (ロ) ウ 体言止め

(3) 〔現代語訳〕——線部を現代語訳しなさい。

(例) 春の夜の夢のようである。

(4) 〔文学史〕 平家物語の a ジャンル、b 成立した時代を、それぞれ書きなさい。

- a () 〔軍記物語〕 () b () 〔鎌倉〕 時代

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

6点×10

与一^{よいち}、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵^{こひやう}といふぢやう、十二^{じふに}東三伏^{とうみつ}、弓は強し、浦響^{うらひび}くほど長鳴りして、あやまたず扇^{あふぎ}の要^{かなめ}ぎは一寸ばかりおいて、

ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇^Iは空へぞ上がり ()。しばしは虚空^{こくう}にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたり ()。夕日^{ゆふひ}のかかやいたるに、みな紅^{べに}の扇^{あふぎ}の日出^いだしたるが、白波^{しやくなみ}の上に漂^{たふ}ひ、浮^うきぬ沈^{しづ}みぬ揺^ゆられければ、沖^{おき}には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸^{くわ}には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。〔平家物語〕より

(1) 〔歴史的仮名遣い〕——線①～③を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

- ① () いうじよう () ② () おうぎ ()
 ③ () ただよい ()

(2) 〔係り結び〕——線Ⅰ・Ⅱには係り結びが使われています。共通する a 係助詞^{かかち}を抜き出し、 () に入る b 結びの語を「 () から選びなさい。」

- a () ぞ () b () ける ()

(3) 〔現代語訳〕——線Ⅲの現代語訳を、次から一つ選びなさい。

- ア 浮かばず沈まずして (ウ) イ 浮かない様子で
 ウ 浮いたり沈んだりして エ 浮かれた様子で

(4) 〔時の把握〕 文中から a 「どの季節か」、b 「一日のうちのいつごろか」がわかる語句を、それぞれ漢字二字で抜き出しなさい。

- a () 春風 () b () 夕日 ()

(5) 〔擬音語〕 文中から擬音語を二つ探し、抜き出しなさい。

- () ひやう (と) () ひいふつ (と)